

<p>前回 活 か ら の 概 要</p>	<p>(1) H28年度の活動体制および施策提案と審議を行った。 ・内閣府執行施策6件、経産省執行施策1件について民間側から提案 ・警察庁執行施策2件について、警察庁より説明 施策の方向性を確認し、議論、指摘があった部分について 追記・修正を行い、次回WGにて最終確認を行う。</p>
<p>平成 28 年 度 施 策 提 案 説 明</p>	<p>・H28年度施策提案に関する主な議論</p> <p>(1) 内1④:次世代都市交通システムのセンシング技術に関する調査 <指摘事項> 実施項目の中には、AI領域の難しい課題や逆にここに掲げたもの以外のアイデアもあるように感じる。応募者からの柔軟なアイデアを受付けるようなものにするとうい。インフラコスト、保守コストが安い方法も考えてほしい。⇒そのような応募提案も受付けるようにする。</p> <p>(2) 内1⑩:次世代都市交通システムの制御性向上に関する調査 <指摘事項> シェアードコントロールは、操舵トルク制御になると思うが、根本的なところまで掘り下げる必要があり難しい。⇒検討課題が多いことは認識し対応していく。</p> <p>(3) 内1⑧:歩行者移動支援システムの共通基盤研究に係る調査 <指摘事項> 端末は何を使うか、歩行ナビはやるのかをどうかを明確にすべき。⇒歩行者端末はシステム実用化WGで進める歩行者事故低減のテーマと共通化する。歩行ナビについては、共通基盤情報の評価を行うために作成する。</p> <p>(4) 警4:次世代公共交通システムの開発(PTPSの高度化・開発)</p> <p>(5) 警5:交通制約者等の移動支援システムの開発(PICSの高度化) <指摘事項> 横断歩道の監視を画像で行うとしているが、総1で進めているインフラレーダーも低コスト化していくので視野に入れて検討してほしい。⇒了解 場所によって優先すべきものが変わってくる。⇒承知している。場所の選定が重要。</p> <p>(6) 内1⑤:次世代都市交通システムの速達性・安全性・交通分担率の変革に係る調査 <指摘事項> ART,BRTを一般の路線バスよりも優先する等のヒエラルキーの整理が必要。そのうえでどのような影響が出てくるかを検証すべき。⇒検討項目に入れる。</p> <p>(7) 内1⑥:世界標準のアクセシビリティを目指す市民参加型混雑・渋滞予測に係る調査 <指摘事項> 五輪の現場で交通混雑等があるときに責任をとる人の所在がはっきりしない。検討した結果をどう伝えるかの仕切りが重要。⇒国、都、組織委が連携して取組む。 予測は当たることが重要ではないか。⇒予測誘導の責任を負うという立場ではなく、予測ツールの検証という連携のしかたもある。ダイナミックマップの活用も視野に入れる。</p> <p>(8) 内1⑦:公共交通の乗降時間短縮に係る調査 <指摘事項> こういった施策の要不要の議論が出たが、要は個々の施策が単品バラ売りに見えるのが問題。⇒WGの初期に議論したART全体像に戻って再度整理してみる。</p> <p>(9) 経6⑫:ART情報センターの構築 <指摘事項> ビジネスモデルも含め経産省と議論をしていく。</p> <p>全体を通して：SIPも後半に入り、社会実装を真剣に意識した体制が必要。 技術移転の方法やそこにかかる費用について議論ができていないのが実情。</p>